

書 評

堀 忠 著『レプラと奇跡——脱神話化と脱医学化に向けて——』	平井雄一郎	349
青木歳幸, W・ミヒェル 編『天然痘との闘い III 【中部日本の種痘】』	廣川 和花	350
日本薬史学会 編『薬史学入門』.....	小林 義典	352
小形利彦 著『明治前期地方公立医学校の洋学史的研究 ～公立医学校授業科目の検討～』	坂井 建雄	353
投稿規定		355
編集後記		357

《本号の表紙絵》

ビギ海軍病院模型 Architect's Model of Bighi Naval Hospital 19世紀初期

(マルタ海事博物館所蔵)

1675年にB.F.G. ビギがカルカーラからリネラに及ぶ入り江を見下ろす岬の上に別荘を建てた。その後、初めてこの別荘を海軍病院とすることを提案したのはネルソン卿であった。1803年、英国艦隊軍医長のスナイプ医師が、この場所が病院に適していることを指摘し、両翼の増築を提案した。1829年3月、この土地は海軍に移譲された。1830年3月23日に海軍中将マルコム卿が礎石を据えた。ビギ病院の建物はウィットモア陸軍大佐が設計し、建築家のゼーリが建設作業を監督した。1832年に完工し、1970年まで病院として運用されていた。

ナイティンゲールが提唱したパヴィリオン型病棟が普及する以前の建築様式であり、換気・採光はそれほど重視されていなかったことが窺われる。第1次世界大戦後期に当地を拠点にして連合艦隊の護衛に携わり、「地中海の守護神」とも称された日本帝国海軍第2特務艦隊に生じた傷病者も、多くはこの病院に収容されて英国海軍軍医の治療を受け、あるいは看取られた。

建物は現存し、マルタ科学技術評議会や科学博物館が入居するほか、結婚式場(“Villa Bighi”)としても活用されている。

(柳川 鍊平)